

次の世代に何を期待するか

— 県内一農村都市における事例 —

南星クリニック

長谷田祐一，長谷田祐作

はじめに

高令化社会を控え私達は数回にわたって県内農村地域の中高年齢者について行った保健調査の結果について項目別に一連の報告を行なって来た。これは先に行われた中高年齢者の保健調査(第1報)を追補する意味を兼ね、上記第1報における調査対象に含まれていない地域の中で特に長寿者の割合が高いと認められる地区を選び同様調査を行なった結果について項目別に報告したものである。今回は前記一連の調査の中、残された9番目の項目「今の若い人達に伝えたいこと、言いたいことがあれば書いて下さい」について検討したものである。

アンケートに対する記入状況は、既報の項目のものについても認められた如く記載洩れもあり、第6項、第10項は第3項「職業」、第7項「現在の家族や周囲の人との関係及び状態」、第8項「くらしのスタイル(主な日課)」などとの関連を見て検討の上報告の予定であったが記入状況は必ずしも十分ではなく予定を変更して項目別のみの報告とせざるを得なかったものである。

今回の第9項についての記入も自由記入となっていた関係もあり100%とは行かなかったが得られた結果についてはほぼ満足できるものと考えられる。

調査対象並びに方法など

調査対象は私達が数回にわたって報告を行

なってきた県内一農村都市(砺波市)内の平地地区(以下A地区と略称する)と山間地区(同じくB地区と略称する)の両地区で昭和60年の晩秋にアンケート方式により自治振興会の協力を得て行われたものである。

調査成績

前記第9項「今の若い人達に伝えたいこと、言いたいことがあれば書いて下さい」は自由記入式となっていた関係もあり記載内容は多種多様であったが、これらについて似たような内容のものを整理し私達は表1の如く4つの群に纏めて見た。表中にも略記した如くA群は一個人として気を付けてほしい内容のものを整理したものでイ～ソに、B群は家庭生活に関連深いと思われる内容のものをイ～へに、C群は社会活動を円滑に行なうためには欠くべからざる心掛けと考えられる内容のものをイ～ルに、そしてD群はその他のもの、及びA～Cそれぞれの群の内容2つ以上の混在的な内容と認められるものをイ～ヌに纏めてみたわけである。

各群は相互に関連する性格のものもあるが、件数、頻度を見る便宜上このように区分したわけである。

先ず記入状況であるが表2のようにA、B両地区の総計ではアンケート回収総数482件中76件、15.7%で、身体に具合の悪いところがある人について見ると同様256件中53件20.7%、身体に具合の悪いところがない人につい

表1 要望、期待などの種類、区分

1) A群	2) B群	3) D群
個人として注意してほしい内容のもの	家庭生活に関連深い内容のもの	その他及びA、B、C各群の二つ以上の混在的な内容のもの
イ、長いものにまかれるような生き方ではない。	イ、余りにも子供を甘やかしている。	イ、家庭があって集落が形成され寄りよって国家が存在することを忘れないでほしい。
ロ、古いことを尊び新しきことに話をもってほしい。	ロ、朝早起きをして朝食を早くこしらえ学校に遅れぬように心掛ける。	ロ、いつも若いことはない、親となり祖父となることを忘れず、人生の生活に何が大切かを知り互いに研究努力してほしい。
ハ、早起き、朝早く起きてほしい。	ハ、家の手伝いをする。田や畑仕事も。	ハ、たまには親や目上の人の言うことを聞き入れる。
ニ、物(水や電気を含めて)を大切にしてほしい、片付けをうまく。物心両面の調和。	ニ、親と同居してほしい。	ニ、自己本位で他人のことを顧みない嫌いがある、もう少し奉仕の精神をもってほしい。
ホ、質素で忍耐の生活を守ってほしい。	ホ、昔のことや家のあらすじを一頁でも二頁でも書いておきたい。	ホ、我家の歴史、村の歴史を知り尊重する。
ヘ、感謝の気持をもってほしい。	ヘ、家族制度を大切にしてほしい。	ヘ、戦争の悲惨さ、窮乏生活の苦しさを忘れず現在の平和な生活を大切にしてほしい。
ト、思いやりの心。礼儀正しくあってほしい。	3) C群	ト、生き得ることは大自然の摂理の大恩があるからだ。
チ、敬老の精神が足りない、自分も老人になることを忘れない。	社会活動に必要と思われる内容のもの	チ、世の中は受ける立場の平等はあるがこれは均一を意味しない。
リ、健康管理、健康で長生きをしてほしい。心身ともにネバリ、頑張りをもてるように鍛えてほしい。身体に無理しない。	イ、時間を守り会合に出てほしい。	リ、人間として個の実態を内省し純情にて励めば必ず道は拓けるものだ。
ヌ、根気よく(我慢強く)あってほしい。意志の強さがほしい。	ロ、辛抱がなく自分勝手な行動をよくする。	註 ト〜リは70年の生涯を通じて体得したこと。
ル、自己中心主義的、注意をしてもきかない。	ハ、周囲(まわり)と協力して仲良くして行く、できるだけ人の世話をする。	ヌ、時代が変わったのだから何も言わない。
ヲ、人間性を欠除しているものが多い。教育を受けても虚飾にすぎず、基本的な人間としての基礎ができていない。	ニ、公共社会に対する心理的奉仕、余裕があれば、経済的にも。	
ワ、不言実行。生活に「けじめ」をつける。	ホ、権利ばかり主張しているが義務を果たすよう、話合いの中で行動に移ってほしい。	
カ、与えられた仕事は責任をもってする。	ヘ、親や年寄りをもっと大切に。	
ヨ、少くとも近い将来の予測をして物事をする。	ト、人のためになるような特技をもつこと。	
タ、物の使い方、買えば何でもあるという考え方が多い。もっと大切に、何でも工夫できるものは自分で工夫する。	チ、戦後の民主・自由主義は我がまま自分さえ良ければという風に解釈している。	
レ、男は男らしく、女は女らしく生きてほしい。	リ、昔の学校教育のことなど研究してほしい。	
	ヌ、自分で自分の言っていること、していることが分らないようだ、もっと自主的生活、責任ある態度をとってほしい。	
	ル、若い人は年寄りとは余り話さないのが淋しい、話をすることは和合のもとになる。	

ては212件中23件10.8%と約半数を示している。

年齢別では60才代(60才~69才)が第1位を占め163件中30件、18.4%を示し、次いで50才代(50才~59才)、70才代(70才~79才)、40才代(40才~49才)の順となる。30才代(30才~39才)でも18件の回収件数中1名の記入が見られたが、80才代(80才~89才)では記入は

一件も見られなかった。

なお地区別に見ると表3の如くA地区では50才代と70才代とが順位を入れ換え、B地区では表4の如く40才代が首位を占め、50才代、30才代、以下60才代、70才代の順を示している。

次に伝えたいことの種類と件数を見ると、表5の如くA群(イ~ソ)の内容が43件と圧倒

表2 若い人達に伝えたいことの記入件数

(全地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計及び%
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M		0 (2)	2 (15)	10 (46)	13 (63)	7 (45)	0 (6)	32 (177)	53 (256) 20.7%
	F			1 (9)	7 (25)	10 (33)	3 (11)	0 (1)	21 (79)	
身体に具合の悪いところがない	M		1 (12)	6 (40)	2 (39)	4 (38)	0 (11)	0 (1)	13 (141)	23 (212) 10.8%
	F		0 (4)	3 (19)	3 (21)	3 (21)	1 (6)		10 (71)	
不明(記載がない)	M			0 (2)	0 (2)	0 (1)		0 (1)	0 (6)	0 (14) %
	F			0 (1)		0 (7)			(8)	
合計	M		1 (14)	8 (57)	12 (87)	17(102)	7 (56)	0 (8)	45 (324)	
	F		0 (4)	4 (29)	10 (46)	13 (61)	4 (17)	0 (1)	31 (158)	
総計及び%			1 (18) 5.5%	12 (86) 13.9%	22 (133) 16.5%	30(163) 18.4%	11 (73) 15.0%	0 (9) 0%	76 (482) 15.7%	

表3 同上

(A:平地地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計及び%
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M		0 (2)	1 (10)	6 (28)	9 (30)	5 (21)	0 (2)	21 (93)	35 (148) 23.6%
	F			1 (7)	4 (16)	7 (26)	2 (6)		14 (55)	
身体に具合の悪いところがない	M		0 (6)	4 (32)	2 (23)	3 (23)	0 (4)		9 (85)	16 (142) 11.2%
	F		0 (3)	2 (17)	2 (18)	3 (13)	0 (3)		7 (54)	
不明(記載がない)	M			0 (1)	0 (2)	0 (1)		0 (1)	0 (5)	0 (9) 0%
	F					0 (4)			0 (4)	
合計	M		0 (8)	5 (43)	8 (53)	12 (54)	5 (25)	0 (3)	30 (186)	
	F		0 (3)	3 (24)	6 (34)	10 (43)	2 (9)		21 (113)	
総計及び%			0 (11) 0%	8 (67) 11.9%	14 (87) 16.0%	22 (97) 22.6%	7 (34) 20.5%	0 (3) 0%	51 (299) 17.0%	

表4 同上

(B:山間地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計及び%
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M			1 (5)	4 (18)	4 (33)	2 (24)	0 (4)	11 (84)	18 (108) 18.5%
	F			0 (2)	3 (9)	3 (7)	1 (5)	0 (1)	7 (24)	
身体に具合の悪いところがない	M		1 (6)	2 (8)	0 (16)	1 (15)	0 (7)	0 (1)	4 (53)	7 (70) 10.0%
	F		0 (1)	1 (2)	1 (3)	0 (8)	1 (3)		3 (17)	
不明(記載がない)	M			0 (1)					0 (1)	0 (5) 0%
	F			0 (1)		0 (3)			0 (4)	
合計	M		1 (6)	3 (14)	4 (34)	5 (48)	2 (31)	0 (5)	15 (138)	
	F		0 (1)	1 (5)	4 (12)	3 (18)	2 (8)	0 (1)	10 (45)	
総計及び%			1 (7) 14.2%	4 (19) 21.0%	8 (46) 17.3%	8 (66) 12.1%	4 (39) 10.2%	0 (6) 0%	25 (183) 13.6%	

注(イ) 年齢区分30才とあるのは30才代(30才~39才)の件数を示す。

(ロ) Mは男性, Fは女性における件数を示す。

(ハ) 表中の()内数字は回答全数を示す。

表5 伝えたいことの種類、件数

(全地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M			A1 B1 D1	A12 C2 B2 D3	A7 C3 B1 D6	A1 C1 D5		A21 C6 B4 D15	A32 C9
	F			D1	A4 C1 B1 D1	A5 C1 B3 D2	A2 C1		A11 C3 B4 D4	B8 D19
身体に具合の悪いところがない	M	A1		A4 C1 B1 D1	A1 D1	A2 B1 D1			A8 C1 B2 D3	A11 C4
	F								A3 C3 B5 D4	B7 D7
不明(記載がない)	M									
	F									
合計	M	A1		A5 C1 B2 D2	A13 C2 B2 D3	A9 C3 B2 D7	A1 C1 D5		A29 C7 B6 D18	
	F			A2 C2 B1 D4	A4 C3 B4 D1	A5 C2 B4 D3	A3 C1		A14 C6 B9 D8	
総計			A1	A7 C3 B3 D6	A17 C5 B6 D4	A14 C5 B6 D10	A4 C2 D5		A43 C13 B15 D26	

注 表中A1はA群についての件数が1件であることを示す。B, C, Dも同じ。(以下同じ)

表6 伝えたいことの種類、件数

(A:平地地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M			A1 D1	A7 C2 B2 D2	A3 C3 B1 D5	A1 D4		A12 C5 B3 D12	A20 C6
	F			D1	A2 B1 D1	A4 C1 B2 D1	A2		A8 C1 B3 D3	B6 D15
身体に具合の悪いところがない	M			A3 B1 D1	A1 D1	A2 B1			A6 B2 D2	A8 C3
	F			A2 C2 B1 D1	B2	C1 B1 D1			A2 C3 B4 D2	B6 D4
不明(記載がない)	M									
	F									
合計	M			A4 B1 D2	A8 C2 B2 D2	A5 C3 B2 D5	A1 D4		A18 C5 B5 D14	
	F			A2 C2 B1 D2	A4 C2 B3 D1	A4 C2 B3 D2	A2		A10 C4 B7 D5	
総計				A6 C2 B2 D4	A10 C4 B5 D3	A9 C5 B5 D7	A3 D4		A28 C9 B12 D19	

的多数に見られ、次いでD群が26件そしてB群C群の順となるが、この両群の差は僅かである。総件数は97となり、表2の件数76を越えるがこれは一人で2以上の要望を示すものも見られるからである。

年齢別に見ると60才代が合計して35件で首位を占め、50才代は同じく32件で2位、次いで40才代、70才代の順となる。

また身体に具合の悪いところがある人からの要望は種類、件数ともに具合の悪いところがないとする人を凌駕していることが認められた。

性別で見た場合、A群とD群については男性の要望が女性のその約2倍を示しているがB群、C群については大差のない状況が見られる。

表7 伝えたいことの種類、件数

(B:山間地区)

自他覚症	年齢区分		30才	40才	50才	60才	70才	80才	合計	総計
	性別									
身体に具合の悪いところがある	M			B1	A5 D1	A4 D1	C1 D1		A9 B1 C1 D3	A12 C3
	F			A2 C1		A1 B1 D1	C1		A3 B1 C2 D1	B2 D4
身体に具合の悪いところがない	M	A1	A1 C1				D1		A2 C1 D1	A3 C1
	F			D2 B1			A1		A1 B1 D2	B1 D3
不明(記載がない)	M									
	F									
合計	M	A1	A1 C1 B1	A5 D1	A4 D2	C1 D1			A11 B1 C2 D4	
	F			A2 C1 B1	A1 B1 D1	A1 C1			A4 B2 C2 D3	
総計		A1	A1 C1 B1 D2	A7 C1 B1 D1	A5 B1 D3	A1 C2 D1			A15 B3 C4 D7	

地区別に見た場合、表6及び表7の如くA地区では全地区総計に見られる傾向を大体において踏襲しているが、B地区ではA群に属する要望が突出する様相を示していることが認められる。

考 察

「今の若い人達に伝えたいこと。言いたいこと」は次の世代を背負う人達に対する要望であり期待であると言える。

記入がないということは次の世代を擔う人達を十分に信頼し、委託することの表われとも受け取れるし、また表1のD群「ヌ」に見られるように「時代が変わったのだから何も言わない」の表われかも知れない。たとえ後者としても十分な信頼なくして済むとは考え難いのではないだろうか。従って記入された各群の各種の要望、記載は念を入れるならば、こうしたことを念頭に入れて次の世代を背負ってほしいということだと私達は考えたい。

身体に具合の悪いところがある人達の記載中には身体の健康の保持増進のための要望などが、具合の悪いところがない人達の同様記載を遥かに凌駕するのではという私達の期待は見事に裏切られ、身体的健康の保持増進に

関連した要望、記載は両者共に2～3件に過ぎず、直接的な表現としては表1のA群の「ヌ」の如くであり、多少関連ありと思われるものとして「ハ」、「ホ」が挙げられる程度であり、殆んどすべてが個人としての知性、徳性の充実、完成、言うならば精神的健康、精神面の健全さを期待するものであると言える。すなわちA群の「イ」～「ソ」は殆んどすべてが精神面の充実、洗練、向上を期待するものと考えることができる。

その他同様表1のB群「ヘ」に見られるように家族制度を大切にしてほしい、C群「リ」に見られるように昔の学校教育のあり方を研究、現在の学校教育との相違を考えることを期待する。またD群「ホ」に見られるように歴史を知り尊重する。これは日本や世界の歴史は学校で学べるが、自分達が育って来た身近な家や村の歴史を知ることの大切さを強調するもので次の世代を擔う人達への要望として洵に適切なものであると考えられる。

今の若い人達には戦争の悲惨さ、窮乏生活の苦しさといっても必ずしも理解できるかどうかと思われるが、表1D群の「ヘ」現在の平和を大切にしてほしいという期待は若い人達のみでなく私達、また会員諸兄にも十分共

感が得られるものと思う。

おわりに

私達は県内一農村都市の一部について行なった中高年令者の意識調査で残された項目である「今の若い人達に伝えたいこと、言いたいがあれば書いて下さい」に記入された自由記載の内容について多少の検討を加え報告した。会員各位の御批判を得られれば幸甚である。なお調査項目などの詳細については末尾文献を参照されたい。

最後にこの調査に御協力を頂いた両地区の自治振興会の役員の方がた並びに御記入を頂いた各地区の住民各位に厚く謝意を表する次第である。

文 献

- 1) 越山健二他：中高年令者の保健調査(第1報) 富農医誌第15巻, 昭和59年3月
- 2) 長谷田祐作他：中高年令者の保健調査 富農医誌第17巻, 昭和61年3月
- 3) 長谷田祐一他：保健のための気配りについて 富農医誌第18巻第1号, 昭和61年12月
- 4) 長谷田祐作他：保健のための気配りについて 富農医誌第18巻第2号, 昭和62年3月
- 5) 長谷田祐一他：中高年令者の意識調査(その1) 富農医誌第19巻, 昭和63年3月
- 6) 長谷田祐作：中高年令者の意識調査(その2) 富農医誌第19巻, 昭和63年3月